

週日の説教

金 大烈 神父 2010年6月22日(火)

《狭い門に入るために》

私の母には、弟と妹が1人ずついました。日曜日の朝、母から結構落ちついた声の電話があり、「叔父さんが亡くなりました。神父様、祈ってください。そして、こちらへ帰ることができますか？」という話でした。三人の中で一番年上の母は元気ですが、弟と妹を先に逝かせなければならなかったのです。私は、月曜日には浦和で顧問会があり、日曜日に急ぎの航空券をとるのも難しかったので、「行けないと思います。」という返事をしました。それから今日まで、3日間ずっと叔父のことばかり考えてきました。いろいろ思い出のある叔父でした。私の人生をいつも見守ってくださった方でした。彼も人の病気を癒す仕事をしていましたが、自分の病気は予想できなかったようです。昨年、脳梗塞で倒れて、それからずっとリハビリを続けてきました。この前、旅券の更新のために、休暇をとって韓国へ行きましたが、その時、叔父の病院へも行きました。しかし、リハビリ中で会うことができませんでした。日本へ帰る日の朝、電話があって、叔父の声を聞きました。何も言えずにただ「神父様、神父様。」とだけ言って泣き出す様子に、「叔父さん、大丈夫です。そんなに意志が強い方なのだから、きっとまた元気になれる。私も毎日祈っていますよ。」と言いました。しかし、実際には毎日祈ることはできませんでした。

それが叔父と話した最後の言葉になりました。

私たちはこの世の中に来て、いろいろな関わりを作りますね。すれ違うだけの人もいるし、複雑な関わりに巻き込まれる場合もあります。もし「目の前にいる人との出会いが、今日で終わるかもしれない。」という適度な緊張感があれば、その人をそんなに軽く扱うことはできないでしょう。3日間ずっと反省をしてきましたが、「私は毎日ミサで覚えていますから、心配しないでください。」というのは、健康な嘘でした。もちろん、思い出せば祈ったでしょうが、思い出せない日も結構ありました。もし、“叔父がいつ亡くなるか分からない”という緊迫感があつたら、私ももっと心をこめてミサのときにいつも思い出したと思います。人生は、本当にある程度は緊張感が必要だと思いました。今そばにいる人、いつも一緒にいてくれるように見える人とも必ず別れる時が来ます。

このような叔父の死を通して、神さまが出会わせてくださったあらゆる関わりに、本当に忠実に、その人にふさわしい、自分らしい姿を見せてきたか、もう一度反省し、振り返ってみました。皆様も、身近な人がいなくなったら、このような気持ちになると思います。私はお葬式のミサを行ったり、死を迎える人を見守ったりする立場ですので、ある程度は慣れていると思っていました。しかしそうではありませんでした。皆様も、人との関わりを、自分が作った関係だと思わないでください。『与えられた関係』だと思えることが、信仰者として必要ではないかと思います。与えられたものは、捨てるものではありません。背く相手ではありません。条件なしに宿題として、永遠の宿題として、自分が成

熟するための関わりとして受け入れなければならないと思います。捨てた者は捨てられます。これが変わらない真理だと思います。

さあ、今日の福音(マタイ7・6、12-14)に入ってみましょう。今の話にし少し通じる内容だと思います。今日の福音には、3つのポイントがあります。

一つ目のポイントは、「神聖なる物をそうではないものに与えてはいけない」ということです。『神聖なもの』というのは、『聖なるもの』のことです。そして、神聖なものは、普通、聖堂の中にありますね。しかし、この箇所には、もっと意味深いものがあります。「**神聖なものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。**」と書いてあります。これはつまり、「**私たちが聖なるものを持っている**」という意味なのです。皆様はそれぞれ心の中に、神様からいただいた聖なるものを持っているのです。この世の流れに流されて、「**聖なるものを守らずに捨ててしまうことがないように**」という話なのです。

二つ目のポイントは、「自分が他人にしてもらいたいと思うことを自分も人のためにしなさい」ということです。この説明は後にします。

三つ目のポイントは、「狭い門を選んで通るように頑張りなさい」ということです。滅びに通じる門は広く、大勢の人々がその広い門を選びます。しかし私たちは、狭い門を選ばなければならないのです。そのようにしていると思いますか？ 狭い門を通るために皆様がなされた一番誇らしいことは、何でしょうか。狭い門を通るために頑張ってきたことの中で、一番誇らしく、人に話してもよいと思えるものがすぐに思い浮かびますか。思い浮かばなければ、みんな嘘です。神さまの前で自信を持って言えるくらいのが、一つ、二つくらいは、すぐ頭に思い浮かぶべきです。ミサに与かり、一年か二年に一回くらい赦しの秘跡を受け、施しの心で募金をいくらかしたくらいが、狭い門に入ることでしょうか。その程度ならば、もう一回人生をやり直さなければならないと思います。

「狭い門に入るため」の答えは、今日の福音の二つ目のポイントにあります。「**人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。**」と書いてありますね。この精神が守られれば、この世の中は、本当に平和なところになると思います。自分がしてほしいと思うことを先に自分からできれば、素晴らしい関わりになると思います。しかし、信仰を持っている私たちでも、その反対の生き方をしていることが多いでしょう。譲ってもよいようなことを譲ったのでは、「譲った」とは言えません。譲りにくいものを譲った時、それを「譲った」と言います。譲りたくないものを譲ることを「譲る」と言うのです。譲ってもよいし譲らなくてもよいものなのに「譲った」と言い張るのは愚かなことです。

皆様が人にしてもらいたいこととは何ですか？ たくさんありますよね。尊敬してもらいたい。愛してもらいたい。もてなしてもらいたい。人として尊重してもらいたい。基本的に人間の心の中にある「してもらいたい」ことは、そのようなことではありませんか？ では、自分では人を尊敬しているでしょうか。尊敬までには至らなくても尊重くらいはしているでしょうか。振り返ってみれば、すぐに

答えは出るでしょう。逆に、してほしくないこととは何でしょうか。無視されたくない。軽蔑されたくない。低く見られたくない。そういうことですね。では、自分には無視した人はいないでしょうか。軽蔑の視線で人の心を痛めたことはないでしょうか。すぐに答えは出ますね。

「天国に入るために狭い門を選びなさい」ということは、そんなに難しいことではありません。しかし易しいことでもありません。イエス様がおっしゃるのはいつも、易しくて難しい、難しくて易しいことです。

相手にしてもらいたいことをしてあげられる生き方ならば、それは100パーセント狭い門に入る道を歩んでいると私は思います。

私も頑張ります。皆様も頑張りましょう。

ありがとうございました。